

## 鹿児島県さつま町との新たな交流

5月5日（土）、瀬戸ひとみさん（間山）ら鶴田町のViC ウーマン（地域のよりよい「農林水産業とくらし」を指揮する女性リーダー）のメンバー10人が、町が友好交流協定を結ぶ鹿児島県さつま町の町内会「むつみ会」から贈られたヒガンバナの球根の植栽を行いました。当日は天候にも恵まれ、植栽場所である津軽富士見湖の堤防にある花壇では、参加者たちが大事に球根を植えていました。

平成29年10月9日（月）～11日（水）に、むつみ会やその家族ら17人がりんごの収穫応援で鶴田町を訪れた際に、さつま町職員でもある寺脇伸治さんと瀬戸さんとの間に交流が生まれ、寺脇さんが披露したさつま町柊野の「ひがん花まつり」の写真を見て、瀬戸さんも植えたいと頼み今回の植栽が実現しました。

これまでのさつま町との交流は、行政同士で行われることが多くありましたが、今回の植栽は町内会と町民が主体となって行われており、新たな交流の始まりと言えます。

今回いただいた球根は全部で150キロもあり、むつみ会では球根の発送作業に、50～70代の10人が参加し、それぞれが持ち寄った球根を丁寧に箱詰めしてくれたそうです。

今回の植栽の中心になった瀬戸さんは、「むつみ会に見せてもらったヒガンバナの写真が綺麗でした。夏に咲く花はあるけど、秋に咲く花があまりなかったのでヒガンバナの球根はありがたい。これからもこの関係を長く続けていきたいです」と話していました。大きい球根だと、早いもので今年の秋に咲く予定で、植栽の参加者は秋の開花が今から待ち遠しい様子でした。



△参加者は協力して球根を大事に植えていました。

### 鶴の舞橋Tシャツ販売

鶴の舞橋をデザインしたTシャツが、陸奥鶴田駅の観光案内所、道の駅つるた「鶴の里あるじゃ」、富士見湖パーク売店の3カ所で、5月から販売されています。販売価格は、税込1,800円で、サイズ展開はM、L、LLの3種類です。

Tシャツの左胸部分には津軽富士見湖が描かれ、背中側には、鶴の舞橋が描かれています。漢字を使用していることもあり、外国人観光客が興味を持つきっかけにもなっています。

主に鶴の舞橋を目的に鶴田町を訪れた人へのお土産品として人気があり、好評をいただいています。Tシャツの売り上げは鶴の舞橋の修繕費用に充てられます。



△Tシャツ（表）



△Tシャツ（裏）

### 道の駅つるた 鶴の里あるじゃの観光案内スタッフを紹介します

近年の観光客の増加に対応するため、道の駅つるた 鶴の里あるじゃに新築した農産物直売所内に観光案内所を設置し、4月14日（土）から太田 恵利子さんが観光案内スタッフを務めています。太田さんは、昨年の5月に観光ガイドとして登録され、以前までは歴史文化伝承館に勤務していました。

道の駅つるた 鶴の里あるじゃには、4月のリニューアルオープン以来、多くの観光客が訪れていて、観光案内所に来る観光客も増えています。

観光案内所では、津軽富士見湖周辺の観光施設についてのことや、他の市町村の観光地への行き方も尋ねられることもあり、さまざまな観光案内の対応をしています。

